「クロ現」キャスター・国谷裕子さん

1993年に始まったNHK報道番組「クローズアップ現代」が17日、最終回となった。写真とあいさつなどは「朝日デジタル」による。

最後のあいさつをする国谷裕子キャスター＝17日のNHK「クローズアップ現代」から

国谷裕子キャスターが番組の最後で約1分30秒あいさつした。

「23年間、視聴者の皆さまからお叱りや戒めも含め、大変多くの励ましをいただきました。国内、海外の変化の底に流れるものや、静かに吹き始めている風をとらえようと、日々もがき、複雑化し見えにくくなっている現代に少しでも迫ることができれば、との思いで携わってきました。23年が終わった今、そのことをどこまで視聴者の皆さまに伝えることができたのか、気がかりですけれども、長い間番組を続けることができましたのは、ご協力いただきました多くのゲストの方々、そして何より番組を見てくださった視聴者の皆さまのおかげだと感謝しています」また、国谷キャスターはNHK広報局を通じ、「23年前に『クローズアップ現代』という番組に出会って以来、見えないゴールに向かって走り続けてきたように思えます。時代が大きく変化しつづける中で、物事を伝えることが次第に難しくなってきましたが、今日という日を迎えて、自分の人生に大きな区切りをつけることが出来たとの想いです。番組を通して出会った人々から得られた多くのことを今後に活かしていきたいと思っています」とコメントした。

今年1月9日にもレポートしたが、「クロ現」と国谷キャスターにはお世話になった。国谷さん、長い間お疲れさまでした。1993年というと、名古屋市立女子短大で「教員生活」を送っていた頃だ。教室に映像機器が設置されるようになり、講義にビデオ映像を活用していった。短大生に日本経済や財政・金融を教えるのに、「クロ現」の映像を一部使わせてもらうことが多かった。タイムリーな話題をコンパクトに編集しており、最初のところだけを講義の「まくら」「参考」にすることも多かった。

名古屋市立大学で講義するようになってから、より積極的に映像を活用して、講義を組み立てることにした。「映像はエイぞー」と言いながら。「クロ現」も景観論争や地方新税をはじめ多くの映像を使わせてもらった。その時いつも感じていたのが国谷さんの鋭い問題提起、まとめ方である。番組を重ねるにつれて、国谷さんの「鋭さ」が増していった。それを嫌う政治、権力の「力」が国谷さん降板、番組改編となったのだろうか。「クロ現」国谷さんの前で「ゲスト発言」できなかったのが残念だ。

（2016年3月19日）